【優秀賞】

国境なきエトピリカのように

芽室町立芽室西中学校
２年　和田　花梨

「故郷と家族を失いたくない。」昨年 6 月、生まれたばかりの子犬を家族に迎えた。名前はギン。私にとっては弟である。ある日、北方領土についてインターネット検索をしていた。突然、北方領土アニメーション「エトピリカ～想いを紡ぐ鳥～」を見つけた。タイムスリップしたかのように吸い込まれた。私と真由、ギンとリク、自然と重なり合わさった。

1945 年 8 月 9 日、ソ連は日ソ中立条約を破棄し対日参戦した。9 月 5 日までに北方領土を占領した。あの穏やかな日々を奪っていったのだ。突然のソ連兵の侵攻で、真由とリク、そして家族はどうなってしまうのか。不安で涙が止まらなかった。今この瞬間、ロシアによるウクライナ侵攻、イスラエルとパレスチナの問題など世界各地で紛争や衝突が繰り返されている。故郷や家族、命までも奪われる出来事が日常茶飯事に起きているのが、私たち日本人にとっては遠い国の出来事のように感じられる。

しかし、北方領土問題は過去ではなく今そこにある現実である。なぜロシアは未だに北方領土を日本へ返還しないのだろうか。北方四島はロシアにとって歴史的、地理的にも戦略上極めて重要な位置にあると思う。ロシアは「第二次世界大戦の結果として獲得したロシアの領土であり、日本が根拠のない領有権の主張を行っている」と主張する。しかし、日本は「日本固有の領土であり、現在はロシアに不法に占拠されている。日本に返還されるべきである」と主張する。平行線である。

今まで多くの政府間の会議があったにもかかわらず、互いに利益と主張を通そうとしているだけではなかったか。排他的経済水域、資源、軍事、移住、北方墓参など、どれも課題が山積みではないか。真由とリクが過ごした穏やかで平和な島の暮らしを時間がかかっても、取り戻したい。

今、私にできることは何だろうか。一つ目は、風化させないことである。戦争体験者や元島民の方が少なくなっていく中で、日本は戦争当事国であり元島民の思いを、私は学校の授業や作文などを通じて多くの人に語り継いでいきたい。二つ目は、どんなに時間がかかってもロシアと日本の架け橋をつくり、北方領土を共存・共生の島にしたい。そのためには、文化等の違いに魅力を見出し共に生きていくよさを伝え続ける。そして、いつか看護師として人道支援や国境なき医療の輪に私も加わり、安心と笑顔を取り戻したい。

今、世界各地で多くの人たちの命が脅かされている。今こそ私たちは未来をつくる当事者として、互いの声を聞き、粘り強い対話と交流が必要である。私は真由とリクの思いを引き継ぎ、誰もが幸せに生きる社会を作りたい。エトピリカのように自由に海を渡り、お互いが分かり合える時が来ることを信じて。